

地域包括ケアシステムの構築に向けて

～いつまでも自分らしく生きがいを持って暮らすために～

問い合わせ 高齢介護課 ☎38-2044

今、社会は大きく変わろうとしています。平成27年(2015年)3月に本市の将来人口について独自推計を行いました。

その結果によれば、人口は平成37年(2025年)に約9万6千人に達し、それ以降は減少基調に転じ、平成52年(2040年)には9万人を下回り、平成67年(2055年)には8万人を下回るものと見込んでいます。

また、高齢化率は上昇を続け、平成57年(2045年)に39.8%に達し、以降は緩やかに

下降していくものと見込んでいます。

そこで、本市では、芦屋市創生総合戦略を策定し、良好なまちづくりの推進を目指して、団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケア」の仕組みの構築をよりいっそう進めていきます。

人口の将来推計(本市の独自推計)

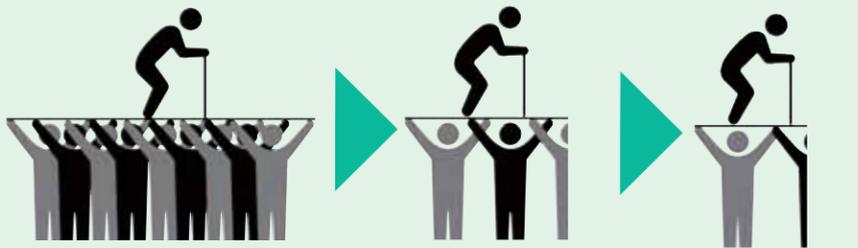


(資料) 芦屋市将来人口推計報告書(平成27年3月)

進む少子高齢化

1965年は働く世代9.1人で1人の高齢者を(胴上げ型)
 2012年には2.4人で1人の高齢者を支えていましたが(騎馬戦型)
 2050年には1.2人で1人の高齢者を支えることとなります。(肩車型)

1965年 胴上げ型 2012年 騎馬戦型 2050年 肩車型



65歳以上1人に対して
 20～64歳は **9.1人** **2.4人** **1.2人**
 (推計)

(出所) 総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」、(出生中位・死亡中位)、厚生労働省「人口動態統計」

